

小森野だより

発行
久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校内
同窓会久留米工業会本部
電話 (0942) 39-2743
同窓会ホームページ
https://komorinokai.jimdo.com/
同窓会事務局メールアドレス
komorinokai@h2.dion.ne.jp

三つの友との出会い

同窓会久留米工業会 会長 國松 良康 (機械工学科 第七回卒業)

高専卒業生の皆さん、専攻科終了生の皆さんご卒業おめでとございます。私は、四十七年前、機械七期卒業の同窓会会長を仰せつかってます、國松と申します。この卒業式の貴重な時間を頂いて、皆様に、何か、鼻向けの良い話でもお伝え出来ればと色々考えましたが、結局自分の経験談程度のお話しをさせて頂きます。

人間は、生まれて、死ぬ迄長くて一〇〇年ですが、日数に置き換えると三六五〇〇日しかありません。私は石材店を経営していますが、あるお尚さんと良く飲みを誘われ、そこでいつも「一期一会」の話になりました。「國松さん、人生は出会いに始まり、出会いに終わる」といつも口グセの様に話されていました。

これが答えは仰っしゃらず、自問自答する日々でした。考えてみれば、久留米市の人口よりはるかに少ない人との出会いしかありません。その中で、十五歳から二十二歳迄の五年か七年の一番多感な時期をここ久留米で過ごした訳です。

又、人生は運命か選択か？で問われたりしますね。久留米高専を選んだのは選択、

そこにある環境は運命かもしれない。先程の出会いの中で、二つの出会いがあるかと思えます。一つは人との出会い、もう一つは環境との出会いです。私は、是非久留米高専に入りたいたいと思っていました、この久留米にこんな環境があるとは思っていませんでした。それは他の高専と違う高等工業、旧工専、短大、高専という歴史が作って来た校風です。聞けばこの学生達に先生方が今も自主性を重んじて自己責任を理解させて頂ける校風があります。授業開始のチャイムもなし、ホームルームもほぼありません。学園祭、予選会運営も自主的に行われますね。

こういう環境の中で、優秀な諸君達、即ち、人との出会いがある訳です。色々御意見はあると思いますが、この五、七年を受験競争なく、同じ寮の飯を喰う仲間と過ごす時、必ず、長い人生、振り返った時、気づきました。先程、毎日出会うにも三五〇〇人、現実、出会うにふさわしい人物はそう多数と出会えません。まず、久留米高専を選択した事は良かったと思います。又この高専とその制度の中でこの環境と会った事も今は

気づかないけど後から良かったと分かって来ます。

人は一人では生きて行けません。家族という形もいづれ作っていかれると思いますが、私の経験では、その前に友人がとて大事な要素だと思います。私の場合、多くの人との出会いはありました。次、三つの友人、親友、心友、深友となったの、多くはこの久留米高専で出会った友達が殆んどです。

ちよつと同窓会のP.R.をさせて頂きたいと思えます。全国に七つの支部(関東、東海、関西、北九州、福岡、筑後、佐賀)があり、そこに優秀な、同じ寮の飯、同じ環境で育った仲間がいます。是非この仲間との出会いの中から、良い経験談とかを聞き乍ら、自らの成長につなげて頂きたいと思えます。

五年七年の長き時間本当に良く頑張られました。保護者の方々もさぞ御安心のことと思えます。重ねて、心からその努力に敬意を表しつつ卒業式のお祝いの言葉とさせて頂きます。

一期一会

久留米工業高等専門学校長 三川 讓二

入学式の直後に始業式があり、そこでは校長講話の時間が設けられている。校長として学生諸君と相まみえることができ、数少ない機会でもある。

今年度は、「二期一会」をテーマとした。四月は、出会いの季節である。スポーツ、趣味、習い事、書物、授業、研究などを通して、友人や先輩、後輩、恩師等と出会う。その一つひとつの出会いがかけがえが無い。今年度、学生諸君によい出会いがあるように、そして、その出会いを大切にしていってほしい、という願いを自分の体験を交えてお話しした。講話を終えた後、いつもは黙して俯きがちな学生諸君から拍手が起った。思いは通じたと思われる。「二期一会」は、茶道に由来する言葉であり、その意味は「一

生に一度しかない出会い」(『広辞苑』)である。言葉の初出は、茶書「山上宗二記」だといふ。山上宗二は、千宗易(千利休)の高弟の一人である。確かに、同書には茶会の「客人ぶり」(客としての心がまえ)として「常の茶の湯なりとも、路地へ入るより出るまで、一期に一度の会のように、亭主を敬畏すべし」(林家辰三郎他編注『日本の茶書1』)とある。しかし、「二期一会」という言葉が人口に膾炙するようになったのは、むしろ茶書「茶湯一会集」によってであることはよく知られている。著者は、他ならぬ幕末の激動の政変の中桜田門外で生涯を閉じた大老井伊直弼その人である。安政の大獄のこともあって、井伊直弼は一般に保守反動の武人・政治家としての印象が強いが、実は儒学だけでなく国学にも通じ(その意味で皮肉にも尊王家)、和歌や茶にも造詣が深い文人の一面も持ち合わせていた。

井伊は、「茶湯一会集」の中で、「そもそも茶の湯の交わりすなわち茶会は、「二期一会」といって、たとえ同じ主客が幾度集まって交わることがあろうとも、今日のこの会は二度と返ることがないと思えば、実に自分にとつて一生にただの一度の会である。したがって、主人はすべてのこと心に配り、いささかも粗末なことのないよう行き



届いた丁寧な真心を尽くし、また客も、この会はそれぞれが二度と会えないかも知れない貴重な場であることを思い、主人の趣向になにひとつおろそかなことがないことを感じ入りながら、真心を持って交わるべきである。このことを「二期一会」というのである」と記している(『本信義義』「古人の教え」に学ぶ 茶湯一会集 常静子劍談)。

小職が久留米高専に赴任した平成二十七年の七月、軍事史家の是本信義先生(福岡県在住)から一冊の本をご恵賜った。同右「古人の教え」に学ぶ 茶湯一会集 常静子劍談」である。是本先生は、小職が師事した柔道の師範八嶽雅男先生の海上自衛隊時代の上司だった方である。肥前平戸藩主松浦静山侯の剣術指南書「常静子劍談」の一節は既に平成二十七年卒業式校長告辞で紹介させていただいた(「卒業生・修了生に贈る言葉 常日頃の生活こそ舞台」『高専通信』第八十一号)。茶の道の世界は、現代に生きる小職には時間の流れが止まったかのようには思え、正直言って理解が追いつかなかった。しかし、この度、始業式の校長講話を機に再び是本先生の著作に出会った。小職の胸に改めて「二期一会」の言葉が刻まれることになった。

全国高専体育大会バレーボール競技

優勝、準優勝報告

乗富 綾乃 (電気電子工学科四年)
井上 陽水 (制御情報工学科四年)

男女バレーボール部は、平成二十九年八月十八、十九日に東京都で行われた全国高等専門学校体育大会(バレーボール競技)に出場しました。

男子バレーは前年度の予選敗退の悔しさをバネに練習してきました。予選では石川高専、徳山高専と対戦し、石川高専にはストレートで勝ち、徳山高専にはフルセットの末、勝利をおさめました。準決勝の茨城高専戦はストレートで勝ち、決勝の松江高専にはデユースまでもちこみましたがストレートで負け、準優勝という結果で終わりました。

女子バレーは二連覇を目指して大会に臨みました。予選では阿南高専、函館高専にストレートで勝ち、決勝リーグでは鶴岡高専、松江高専と戦いました。鶴岡高専にはストレートで勝ち、松江高専とはフルセットになりました。もう一度挑戦者として持てる力をすべて出し切る思いで戦い、優勝することができました。

これらの結果は先生方、コーチ、OB、OG、家族、友人などたくさんの方の支えがあったからこそ得られたものだと思います。



ます。大会当日には三十人以上のバレー部OB、OGをはじめ多くの方が会場に来て応援してください。私達にとって大きな力となりました。これからもバレーボールに打ち込める環境、応援してくださる人がいることに感謝し、今年度、久留米で行われる全国大会で男女共に優勝できるように、仲間と互いに高めあいながら頑張っていきたいと思います。

あの夏はアツかった

硬式野球部 主将 占野 誠弥 (機械工学科五年)

私たち久留米高専硬式野球部高専連所属の部員二十三名、マネージャー九名は、七月二十一日から二十三日まで開催された第五十四回九州沖縄地区高専大会に出場しました。初戦から自慢の打線は好調でした。一回戦から決勝までの四試合でほぼ全試合コールドゲーム、総得点四十九点を上げ優勝を果たしました。その勢いのまま八月二十二日から二十四日まで開催された、第五十二回全国高専大会に参加すべく群馬に乗り込みました。全国はレベルが高く、九州のようにはいきませんでしたが、初戦の対鶴岡高専戦では六対一と快勝したものの、準決勝の対群馬高専戦は二対一と苦戦しました。決勝では、その春、三重県の高校野球大会を制した近大高専と試合をし、接戦の末



三対五で敗北しました。準優勝：嬉しかった。けれどもその何倍も悔しかったです。最高のメジャーで全国優勝を目指し、汗を流した夏は悔し涙で幕を閉じました。代替わりした現在は、どこの高専よりはやく練習を開始し、日々努力し続けています！あの夏よりもっとアツい夏にするために：



第13回 大同窓会の御案内

同窓生の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げますとともに、日本各地の様々な分野で御活躍のことと拝察いたします。

さて、大同窓会を、今年12月29日土曜日に開催いたします。諸先輩、後輩の方々と懇親を深める為にも、お忙しい時期とは存じますが、皆様の多数の御参加をお願いいたします。

記

日時 平成30年12月29日(土)

13時30分～受付
14時00分～総会
14時30分～特別講演
15時40分～懇親会(17時30分終了予定)

場所 ホテルニュープラザKURUME
(西鉄久留米駅より徒歩5分)
久留米市六ツ門町16-1
TEL 0942-33-0010

会費 5,000円

※同窓会事務局 Email:reunion.kosen@gmail.com
TEL 0942-39-2743



第13回大同窓会

実行委員長 第24期 金属工学科 田中 信也
副実行委員長 第25期 機械工学科 中村 守康
実行委員一同

本校卒業生及び専攻科修了生数

(2018年3月現在)

学科名	人員	専攻科名	人員
機械工学科	44	機械・電気システム工学専攻	18
電気電子工学科	35		
制御情報工学科	40		
生物応用化学科	40	物質工学専攻	10
材料工学科	35		
合計	194	合計	28

平成30年度入学生数

学科名	人員	専攻科名	人員
機械工学科	43	機械・電気システム工学専攻	28
電気電子工学科	43		
制御情報工学科	43		
生物応用化学科	43	物質工学専攻	11
材料システム工学科	43		
合計	215	合計	39